

イタリアンライグラス極早生品種「ヤヨイワセ」の栽培特性

「ヤヨイワセ」は直立型で耐倒伏性・収量性に優れ、収穫期分散も可能

背景・目的

- ・県内のイタリアンライグラス作付面積は13,694ha(麦類混播含む)で、秋冬作面積の約9割を占める重要な飼料作物
- ・飼料自給率の向上に向け、飼料作物優良品種の選定・普及が必要
- ・イタリアンライグラスについて、本県の飼料作物奨励品種に極早生品種が指定されておらず、収量性等に優れた品種が必要

成果の内容



「ヤヨイワセ」の草姿

「ヤヨイワセ」の栽培特性(H27~29, 試験地: 県畜産試験場)

品種名	発芽 良否	定着時 草勢	草丈		倒伏程度		病虫害程度		乾物収量			乾物収量 の対比較 %
			1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草	1番草	2番草	計	
			1~9極良	1~9極良	1~9甚	1~9甚	1~9甚	1~9甚	kg/a	kg/a	kg/a	
ヤヨイワセ	7.8	7.8	117	87	2.4	1.0	1.0	1.0	95.3	31.0	126.3	103.6
さちあおば(指標)	7.2	7.1	115	88	2.9	1.3	1.0	1.0	91.0	31.2	121.9	100.0

「ヤヨイワセ」の特徴

- 「さちあおば(極早生)」との比較
- ・耐倒伏性は、同程度以上
 - ・乾物収量は、104%と同等以上
 - ・耐病性は、同程度で強い
 - ・いもち病抵抗性を有する

導入メリット

早生, 中・晩生品種と「ヤヨイワセ」を組み合わせることで、収穫期分散が可能となり、より安定的な自給飼料の確保が期待できる

イタリアンライグラスの作付け例

	10月	11月	12月	翌4月		翌5月				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
極早生品種	○	-----	-----	△	-----	-----	□			
早生品種	○	-----	-----	-----	△	-----	□			
中・晩生品種	○	-----	-----	-----	-----	△	-----	□		

○: 播種, △: 1番草, □: 春2番草

期待される効果

自給飼料の安定確保による乳用牛農家, 肉用牛農家の経営安定

鹿児島県農業開発総合センター 畜産試験場 企画環境飼料部 草地飼料研究室

普及対象・範囲

県内の乳用牛農家, 肉用牛農家

(民間)